

令和6年2月20日 佐藤

～ 新型コロナウイルス感染症による4度の中止を乗り越え、伝統の歌声が両国の地に復活！ ～

## 5年ぶりとなる「国技館5000人の第九コンサート」を国技館で開催

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年から開催を見送ってきた『国技館5000人の第九コンサート』（主催：国技館すみだ第九を歌う会・墨田区）を2月18日（日）に5年ぶりに実施しました。

昭和60年に国技館が蔵前から相撲の町「両国」に戻ってきたことを歓迎して始まったこのコンサートは、音楽が持つエネルギー、人と人をつなぐ力を地域の活性化に活かすという機運を生み、すみだトリフォニーホール（墨田区錦糸 1-2-3）を活動拠点とする新日本フィルハーモニー交響楽団とのフランチャイズ提携が実現するなど、区の音楽都市構想のきっかけとなりました。

合唱団には墨田区だけでなく、全国各地からたくさんの参加者が集まりました。コンサートのテーマである「復活の第九・未来への第九」には、多くの方が紡いできた歴史と想いが込められ、コンサートと同年に結成された「すみだ少年少女合唱団」が元気な歌声でプロローグを飾ったほか、区と包括連携協定を結ぶ公益財団法人日本相撲協会の協力により、復活を祝う相撲甚句「祝再会」も披露されました。

会場には、迫力ある第九の合唱を聴こうと全国各地から3000人を超える観客が集まり、5年ぶりの開催ということもあり、出演者も観客も熱い想いをもって参加していることが伝わります。

演奏終了後には、客席から自然に「ブラボー！」と歓声が上がリ、鳴り止まない拍手が会場全体を包み込み、コロナ禍を乗り越えて復活を遂げたコンサートは、大成功のうちに幕を閉じました。

区の担当課長は「全国から集まった合唱団の皆さんの想いが歌声として5年ぶりに国技館に響きわたり、音楽は希望を与えるものであるとともに、貴重なものであると再認識する場となったと思う。40年近く続く歴史あるコンサートが、これからも長く愛される場にしていきたい。」と開催を振り返りました。

### 《写真》コンサート当日の様子（2/18撮影）

合唱の様子



すみだ少年少女合唱団



相撲甚句「祝再会」



### 《概要》第37回 国技館5000人の第九コンサート

#### 第一部

- ・復活のプロローグ すみだ少年少女合唱団
- ・相撲の音を聴く 公益財団法人 日本相撲協会  
春日山親方（元関脇・勢ノ伊勢ノ海部屋） 利樹之丞、  
北大地（立浪部屋） 勇輝（陸奥部屋）

#### 第二部

- ・ベートーヴェン 交響曲第九番 二短調 作品125「合唱付」  
指揮：大友 直人 独唱：市原 愛、谷口 睦美、宮里 直樹、福島 明也  
合唱：国技館すみだ第九を歌う会 管弦楽：新日本フィルハーモニー交響楽団  
合唱指導：栗山 文昭

### 《問合せ》地域力支援部 文化芸術振興課

03-5608-6180

お問い合わせは午後5時までにお願ひします。（広報広聴担当

03-5608-6220）